QUALITY ASSURANCE
JIC
REGISTERED
ORGANIZATION
No.0430-ISO9001
ISO9001認証取得



INNER FIRE

情熱とは、あなた自身の内なる炎。
一途にトレーニングに励むときも、
戦いに敗けても挫けず
何度も果敢に挑戦し続けるときも、
熱く、まばゆく燃え続ける。
熾烈な戦いのなかで、
すべての敵を焼き尽くしてしまうまで。



■ 日本リーグ唯一の公式試合球
■ 全日本実業団連盟主催大会唯一の公式試合球

32H312Y ヌエバ ¥6,825(本体価格¥6,500)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・3号球
カラー（黄×黒）

32H212Y ヌエバ ¥6,615(本体価格¥6,300)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・2号球
カラー（黄×黒）
(標記の価格はメーカー希望小売価格)

世界を目指すシステムとしてのNTS



㈶日本ハンドボール協会 参事 **蒲生 晴明**
（競技者育成技術委員会ナショナルトレーニングシステム運営委員長）

オリンピックイヤーがスタートしました。我が代表チームは、本戦への出場は叶わなかったものの、アジア予選でライバル韓国に男女ともにドローと肩を並べました。さらに、女子は世界選手権へ出場し、男子は4大会振りに世界選手権出場権を大激戦の末、獲得。この勢いを継続するため、日本協会は活動の柱として、改めて「オリンピックプロジェクト」と「地域振興プロジェクト」を提示しました。このプロジェクトの「柱」となるのが、NTSです。

毎年繰り返しになりますが、NTS（ナショナルトレーニングシステム：競技者育成プログラム）は、「世界をスタンダード」にした「タレント発掘」、「タレント育成」を目的とした「一貫指導システム」であり、㈶日本ハンドボール協会として全国をピラミッドにした発掘・強化・育成・指導・普及システムであります。強化委員会・指導普及委員会・審判委員会などが企画立案した事業を都道府県協会や各連盟と協力協調し、NTS（現場）を通して全国へ展開していくシステムであることが重要です。幸い、昨年から「競技者育成技術委員会」が発足、「分析チーム」が立ち上がり、様々な角度から世界の流れをキャッチして日本の強化育成に展開していけるようなシステムになってきました。一貫指導システムは、国として中央競技団体が主体性を発揮し、運営管理していくことが望まれます。世界の強豪国は、このシステムを独自のアイデアを駆使し、運営する中で、優秀なタレントを発掘・育成しています。当然ながら、競技者を変えることが出来るのは「指導者！」だけであり、指導者養成・育成・強化がパラレルに進歩していかなければ、その成果は期待できません。そして、「学ぶことをやめたら、教えることをやめなければならない：サッカーフランス代表監督ルメール氏」を合言葉に、指導者こそ、常に新しい情報を自身で積極的に取り込み、現場に生かしていただきたいと思います。

次に、システムとして運営していく上で重要なのは「財源」です。2000年は日本リーグチームの支援、2001～2002年はJOC（国庫）・日本リーグの支援、2003年は、toto助成をいただきながらの運営をしてきましたが、いつの日か？日本ハンドボール協会の自己財源で運営していくことが望まれます。2004年度のNTS事業財源は、totoの売り上げ減によって助成金額が大変厳しく、昨年同様の運営は不可能と思われます。しかしながら、将来をにらんだこの事業を停滞させるわけにはいきません。したがって、我々ハンドボール関係者が積極的にtotoを購入すること、その財源を効率的・効果的に運営使用すること、そして日本リーグチーム・都道府県協会をはじめ、推薦された指導者選手・NTS関係者の方々のご支援をいただきながら進めていかなければならないと思います。

㈶日本ハンドボール協会のNTSは、文部科学省やJOCからモデルとして注目されており、将来への広がりも含めて、関係の皆様のご理解、ご協力、ご支援をよろしくお願いたします。

第28回日本ハンドボールリーグ
プレーオフ

於：駒沢体育館

大盛況、成功裏のうちに幕を閉じる



日本ハンドボールリーグ委員会委員長　川上憲太

超満員のプレーオフ

3月20日(土)、21日(日)にハンドボールのメッカとして定着した東京・駒沢体育館は連日の満員。特に決勝が行われた21日(日)は立ち見が出るほどの超満員で選手の一挙手一投足に湧きかえりました。

VIPの来場

会場には協賛会社の全日本空輸さまをはじめ、オリンピックイヤーで大変ご多忙の中、竹田恆和日本オリンピック委員会会長が観戦され、ハンドボールの素晴らしさ、激しさ、盛況の会場をご覧になり、「素晴らしい、すごい」と感動の言葉を連呼されていました。又、日本体育協会安西孝之ご夫妻、新体操の山崎浩子さん、秋山エリカさん、女優の神崎愛さん他、たくさんの方がお見えになり、会場を更に盛り上げて下さいました。

ホンダ、広島メイプルレッズの連覇続く

今年のホンダチームは、レギュラーシーズンの戦いぶりから見てかなりの苦戦が予想されましたが、ふたを開ければGK・四方選手の見事なプレーに代表されるように、チームワークよくすんなりと勝利をものにしたという印象でした。

広島メイプルレッズは挑戦者オムロンに対し堂々と受けてたち、韓国女子チームのアテネオリンピック出場に貢献した林、呉両選手の活躍は勿論ですが、大前選手のシュートミス無しの10得点という史上に残るプレーもあり、完勝でした。

優勝した両チームにはチームマネジメント、心技体にわたるトレーニング、サポーターの皆さんとの連携等々、日頃の大変な努力の結果であると改めて敬意を表する次第であります。連覇、おめでとうございます。その記録の更なる更新を期待します。

優勝した両チームに、東アジアクラブ選手権への出場権

アジア地区の正常化のために昨年発足した東アジア連盟(現在、日本・中国・韓国が加盟)の最初の行事として企画された第1回東アジアクラブ選手権大会(4月14日～16日)が韓国・ソンナムで開かれました。この記念すべき第1回大会へ、今回のプレーオフ優勝両チームが出場しました。

盛り上った大会運営

日本リーグ機構・市原会長をはじめ、今年から新たに加わった田中茂ゼネラルマネージャー担当、日本リーグ委員の皆さんの努力・アイデアにより、会場が超満員にふくれ上がり、最高の盛り上がりを見せたことに改めて関係者の皆様にお礼を申し上げます。中でもハンドボールへ繋がるドッジボール協会との連携で少年チームが来場、HC東京の選手との交流試合では大人のトップ選手がたじろく場面も見られました。又、東京女子体育大学新体操競技部によるハーフタイム時の演技は、席を立つ人がいないという珍現象が生まれるほど素晴らしく、魅力あるものでありました。

絶対に北京オリンピック出場!!

昨年のアテネオリンピックアジア予選神戸大会であと1点に泣いた男子チーム、そして韓国と引き分けた女子チーム。あのくやしい思いから日本ハンドボール界が意気消沈するのかと心配でしたが、2月に男子チームは2005年世界選手権チュニジア大会への出場権を獲得してきてくれました。

女子も昨年12月の世界選手権で高い評価を頂いています。

決勝日の超満員のスタンドを見た時、日本のトップチームの集まりである日本リーグを中心にしたナショナルチームの育成強化に、力強いバックアップの必要性を改めて感じました。日本リーグ関係者を先頭に日本ハンドボール界全員で更なる努力を重ね、

「絶対に北京オリンピックに出場しましょう」。

来年も素晴らしい大会になりますよう全員で頑張りましょう。ファンの皆様、関係各位の皆様、誠にありがとうございました。

戦いの記録

■3 月 20 日(土)　女子プレーオフ準決勝

オムロン（リーグ 3 位）　21（8-8, 13-12）20　**シャトレーゼ**（リーグ 2 位）

シャトレーゼのスローオフでプレーオフ準決勝の開始。シャトレーゼが 14 番早船の 7m スローで先制する。しかし、オムロンも 20 番劉の速攻、3 番安心院のサイドシュートなど 5 連続得点で、前半 15 分 6 － 3 と逆転。前半 22 分にオムロン安心院のステップシュートが決まり、8 － 5 とした時シャトレーゼがタイムアウト。その後シャトレーゼが反撃をし、8 － 8 の同点で前半終了。

後半に入り、流れはシャトレーゼのペースと思われたが、シャトレーゼの退場者が相次ぐ中、オムロンは確実に得点を重ね、後半 20 分オムロン 19 番洪のロングシュートで 20 － 16 とオムロンリード。しかし、シャトレーゼも激しい追撃を繰り広げ、後半 29 分 15 秒早船の本日 10 得点目となるミドルシュートを決め、20 － 20 の同点に追いついた。しかしオムロンは、残り 8 秒キャプテン 8 番佐久川の 7m スローが決まり劇的な勝利となり、決勝進出を決めた。

■3 月 20 日(土)　男子プレーオフ準決勝

大同特殊鋼（リーグ 3 位）　22（11-12, 11-9）21　**湧永製薬**（リーグ 2 位）

プレーオフ決勝のキップをかけて、湧永製薬ボールでスローオフ。45 秒にディフェンスからの速攻で大同特殊鋼 17 番山本が先制し、大同が主導権を握ると思われたが、1 分 10 秒湧永 10 番ブラマニスが 7m スローを決め、このゲームの激しさが伝わる立ち上がり。大同が先手を取ってはいるが、2 点差以上は広がらない展開となる。しかし前半残り 1 分、湧永が同点に追いつくと、残り 10 秒で湧永 10 番ブラマニスがカットインを決め、12 － 11 の湧永リードで前半終了。

後半に入っても一進一退の攻防が続き、両者一歩も譲らない好ゲーム。動きが出たのは 18 分、大同 18 番朴性立が失格となり湧永優位かと思われたが、23 分、今度は湧永 10 番ブラマニスが失格、最後まで気の抜けない展開となった。試合を決めたのは、21 － 21 の同点での残り 15 秒、大同 2 番松林が劇的なポストシュートを決め、大同がホンダへの挑戦権を勝ち取った。

■3 月 21 日(日)　女子プレーオフ決勝

広島メイプルレッズ（リーグ 1 位）　35（18-14, 17-13）20　**オムロン**（リーグ 3 位）

レギュラーシーズン 1 位の広島メイプルレッズと、昨日劇的な勝利を飾ったオムロンの決勝戦は、広島のスローオフで試合開始。オムロン 13 番水野の速攻で先制。しかし広島は、10 番呉の 7m スローや 5 番大前の速攻ですかさず逆転。その後オムロンは、13 番水野の速攻、19 番洪のロングシュートで反撃。広島も 7 番林を中心に早い回しでリードを守っていたが、オムロンは 5 番西本のポストシュートで前半 20 分、ようやく 11 － 11 の同点に追いついた。しかし広島は 3 連続速攻などで突き離し、18 － 14 で広島リードで前半終了。



試合後の記者会見。優勝監督の林監督（左）と MVP の大前選手（右）

後半に入りオムロンは、3 番安心院の 7m スロー、8 番佐久川のサイドシュートなどで後半 11 分、22 － 20 と追い上げる。しかし、広島は 5 番大前の速攻や 7 番林のカットインで、20 分には 30 － 21 と 9 点リード。オムロンも必死に食い下がるも広島が力の差を見せつけて、6 年連続 7 度目の優勝を決めた。

MVP は、10 得点の広島の 5 番大前選手が獲得。

■3 月 21 日(日)　男子プレーオフ決勝

ホンダ（リーグ 1 位）　25（11-10, 14-9）19　**大同特殊鋼**（リーグ 3 位）

第 28 回日本ハンドボールリーグの最後を飾る決勝戦の幕が開いた。序盤は、ホンダ 10 番広政のカットイン、24 番クリチェンコの 7m スローでホンダが先制。しかし、大同特殊鋼も 17 番山本のサイド、18 番朴の速攻で追いつくという息もつかせぬ展開。中盤ホンダが 4 点リードの場面もあったが、すぐに大同も 5 番峯村のカットイン、10 番畠中のロング等の 4 連続得点で追いつく。接戦が予想される試合となった。前半は、終了間際にホンダ 7 番の斎藤のカットインが決まり、11 － 10 でホンダリードで終了。

後半に入ると、大同が 7 番市原のミドルで追いつき、5 番峯村のシュートで逆転したが、8 分ホンダが 11 番谷口のサイドシュートをかわきりに 4 連続、その後 6 連続得点を決め 23 － 15 の 8 点差とし、優勝をほぼ決めた。最後は大同の必死のマンツーマンディフェンスもとどかず、ホンダが 25 － 19 と勝利し、連続優勝記録となる 6 年連続 8 度目の優勝を決めた。


ホンダ・谷口選手のサイドシュート

PHOTO GALLERY



エキビションでは小学校のドッジボールが行なわれた。



男子ゲームを担当したスウェーデンレフェリーと斉藤審判部長（右）と後藤日本リーグ審判長（左）



ハーフタイムショーの東京女子体育大学新体操競技部



大同の息の合った応援



秋山エリカさん



ゲームを観戦する安斉御夫妻と神崎愛さん



TVK テレビ放送の蒲生氏（中央）と全日本中川キャプテン（右）。左は久保弘毅アナウンサー



ホンダにメダルを授与する竹田 JOC 会長



メイプルレッズにメダルを授与する安斉日体協会長

第28回日本ハンドボールリーグ・レギュラーシーズン成績表

順位	【1部男子】	ホンダ	湧永製薬	大同特殊鋼	大崎電気	ホンダ熊本	トヨタ車体	アラコ九州	HC東京	試合数	勝数	引分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差
1	ホンダ		23 19 ○ ○	21 21 ● ○	26 27 ○ ●	30 24 ○ ○	26 29 ○ ○	33 20 ○ ●	28 31 ○ ○	14	11	0	3	22	358	279	79
2	湧永製薬	20 18 ● ●		28 18 ○ △	28 28 ○ ○	29 25 ○ ●	26 28 ○ ○	34 23 ○ ○	35 29 ○ ○	14	10	1	3	21	369	288	81
3	大同特殊鋼	18 22 ● ○	28 18 ● △		25 25 ○ ●	30 23 ○ ○	25 27 ○ ○	27 28 ○ ○	26 28 ○ ○	14	10	1	3	21	344	288	56
4	大崎電気	15 33 ● ○	24 21 ● ●	20 26 ● ○		25 27 ○ ○	22 25 ○ ○	22 26 ○ ○	29 23 ○ ○	14	10	0	4	20	338	308	30
5	ホンダ熊本	18 20 ● ●	24 26 ● ○	22 21 ● ●	21 20 ● ●		27 25 ○ ○	27 22 ○ ●	29 25 ○ ○	14	6	0	8	12	327	340	−13
6	トヨタ車体	19 23 ● ●	21 21 ● ●	23 16 ● ●	20 22 ● ●	24 22 ● ●		25 22 ○ ○	29 26 ○ ○	14	4	0	10	8	313	327	−14
7	アラコ九州	22 22 ● ○	24 17 ● ●	25 23 ● ●	20 19 ● ●	26 23 ● ○	23 20 ● ●		27 31 △ ○	14	3	1	10	7	322	358	−36
8	HC東京	13 16 ● ●	15 13 ● ●	14 10 ● ●	16 11 ● ●	20 12 ● ●	15 9 ● ●	27 22 △ ●		14	0	1	13	1	213	396	−183

※上位3チームはプレーオフで順位を決定。2位—3位は、対戦間勝点による。7位は入れ替え戦に出場する（8位は2部へ自動降格）。

順位	【1部女子】	広島メイプルレッズ	シャトレーゼ	オムロン	ソニー	北国銀行	HC名古屋	試合数	勝数	引分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差
1	広島メイプルレッズ		24 25 24 ○ ● ○	26 29 33 ○ ○ ○	32 29 39 ○ ○ ○	27 28 33 ○ ○ ○	39 24 38 ○ ○ ○	15	14	0	1	28	450	344	106
2	シャトレーゼ	23 26 22 ● ○ ●		34 20 16 ○ ○ ●	28 18 25 △ ● △	29 23 32 ○ ○ ○	24 32 31 ○ ○ ○	15	9	2	4	20	383	319	64
3	オムロン	20 20 24 ● ● ●	19 17 17 ● ● ○		27 23 27 ○ ○ ○	22 20 28 ○ ○ ○	36 25 26 ○ ○ ○	15	10	0	5	20	351	339	12
4	ソニーセミコンダクタ九州	30 25 32 ● ● ●	28 27 25 △ ○ △	26 21 17 ● ● ●		27 30 39 ○ ○ ○	29 26 32 ○ ○ ○	15	7	2	6	16	414	362	52
5	北国銀行	15 20 21 ● ● ●	19 17 17 ● ● ●	17 19 21 ● ● ●	18 16 27 ● ● ●		22 21 16 ○ ○ ●	15	2	0	13	4	286	397	−111
6	HC名古屋	24 23 19 ● ● ●	18 19 23 ● ● ●	24 19 17 ● ● ●	16 16 21 ● ● ●	18 19 22 ● ● ○		15	1	0	14	2	298	421	−123

※上位3チームはプレーオフで順位を決定。2—3位は対戦間勝点による。

順位	【2部男子】	北陸電力	トヨタ自動車	大阪ガス	豊田合成	試合数	勝数	引分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差
1	北陸電力		30 28 33 ○ ○ ○	35 19 31 ○ ○ ○	34 41 37 ○ ○ ○	9	9	0	0	18	288	148	140
2	トヨタ自動車	18 18 19 ● ● ●		17 27 22 ● ○ ○	28 27 34 ○ ○ ○	9	5	0	4	10	210	208	2
3	大阪ガス	15 17 18 ● ● ●	20 21 16 ○ ● ●		32 24 32 ○ ● ○	9	3	0	6	6	195	232	−37
4	豊田合成	16 14 13 ● ● ●	26 14 20 ● ● ●	24 27 30 ● ○ ●		9	1	0	8	2	184	289	−105

※1位の北陸電力は1部との入れ替え戦に出場。

全日本実業団ハンドボールチャレンジ2004

平成16年2月20日(金)～22日(日)

全日本実業団ハンドボールチャレンジ2004大会を振り返り



全日本実業団ハンドボール連盟理事長　**粟屋敏則**

はじめに

今大会は、全日本実業団トーナメント大会から通算して35回目の大会となりました。又、トーナメント大会という名称からチャレンジ大会に変更になってから9回目の大会でもありました。年々この大会も、長引く景気不安定な情勢を受けて、チーム数が減少しているのは寂しい事ですが、参加された17チームは、そんな状況を吹っ飛ばすくらいの熱気でコートを走り回り、勇猛果敢にゴールを狙い、大変盛り上がった大会となりました。

そして、三重県協会の皆様や、モルテン様並びに地元企業で支援していただきました皆様がたに大変お世話になり、立派な大会が運営できたことを、感謝しております。本当にありがとうございました。

大会全体を振り返り

組み合わせは、昨年優勝したデンソーファドレスを第1シードとし、準優勝の金沢市役所が第2シードで3位の自衛隊久里浜を第3シード、4位の豊田自動織機を第4シードとして、1回戦は同地域対戦を避け、普段対戦できないチーム同士での抽選をおこないました。又、遠方から参加していただいたチームが、1回戦だけで終わることは、1年間一生懸命練習してきた事に対して、発表の場が少なすぎる為、敗者戦を設け、最低でも2試合できるシステムとしました。

大会初日の懇親会では、チーム代表者や審判団及び、三重県協会の皆様、地元協賛企業様とふれあう事ができ、普段では中々話せない裏話も審判団からでて、和やかに情報交換できました。

試合では、持てる実力を如何に発揮できるかがキーポイントであり、仕事優先の日常練習での体力を計算しながら、ゲームリードしていくテクニックもこの大会の特徴でもあります。2年連続優勝したデンソーファドレスも、決勝では昨年のような楽な試合運びができず、苦戦を強いられる結果となっています。百戦錬磨の社会人の、完熟したプレーが随所で観られ周りの観客を唸らせていました。

そして今大会は、鈴鹿の地元協賛としてスパイダー・ジャパン様より各チームへトートバッグと優勝チームへ記念Tシャツ全員分とMVPには特製ジャージと敗者戦優勝チームへ移動用バッグが提供され、また違った喜びも体感できたようです。

今後の課題

①来年度の高松宮記念杯第45回全日本実業団ハンドボール選手権大会への出場権にチャレンジするAグループのチームがなく、今大会のみ参加のBグループだけになってしまった事で本来のチャレンジの意図がボヤケてしまったため、大会主旨の転換を図っていきます。

②大会への参加について会社側の理解が希薄化しつつあり、『人・もの・金』で選手個人への負担が大きくなってきています。実連として、チームへの負担を少なくする大会運営を企画していきたいと考えます。



メダルを授与する粟屋理事長

全日本実業団チャレンジ2004に参加して



常陽銀行ハンドボール部部長　高橋二三也

この大会には、今年で14回目の出場となりました。3日間で4試合。結果はともあれよく最後まで戦ったなぁ、というのが今の実感です。恐らく観戦していた方には退屈な試合だったことと思います。なぜなら速攻を捨て、ひたすら省エネ戦法に徹していたからです。とはいえ、メンバーは高齢なうえに人手不足、さらに初戦でエースが怪我でリタイアするという状況に陥り、遅攻以外他に選択肢はないというのが実態でした。正直なところ最終日は、とにかく怪我だけはしないようにと祈っていました。手前味噌にはなりますが選手の健闘に対し、大きな拍手を送りたいと思います。

常陽銀行は茨城県水戸市に本店を置く地方銀行です。当部は、茨城大学教授であった故磯部先生の後援を得、昭和45年に茨城大学OBが中心となって創部されました。以来33年、戦績はともあれ実業団チームとしての活動歴は誇れるものと自負しています。個人的にはこの不景気のさなか、しかも特にアゲインストの風が強い金融業界にあって、マイナースポーツであるハンドボールチームを、いまだに維持していることだけでも奇跡的なことではないかと考えています。

幸い当部は会社側の理解もあり廃部こそ免れているものの、財政的支援はかなり絞られております。現在の活動は、まさしく部員の熱意によって支えられていると言えます。先のことを考えず、とりあえずもう1年、もう1年という気持ちで活動をつづけていきたいと考えております。



チームワークで勝負



周南市役所ハンドボール部主将　河村　直

周南市は昨年4月21日に山口県の東南部に位置する徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町の2市2町が合併して誕生しました。周南市役所ハンドボール部も徳山市のメンバーを中心に出来た新しいチームですが、徳山市時代からの歴史は30年近くになります。

発足当初は部員も少なく何とか試合が出来るような状態でしたが、10年程前から未経験者を含め少人数ながら練習を開始し、現在は他のクラブチームと一緒に練習しています。とはいえ、個人練習が中心となりセットプレーの練習はほとんど出来ず、常にぶっつけ本番で試合に臨んでいます。また、主力選手の中には、他の競技で活動する者もおり、未だベストメンバーを組めた事がないのが実状です。こうした苦しいチーム状態ですが、試合後は必ずミーティングを行い課題を整理し、次の試合に活かしています。これを継続してきたお陰で、強い精神力とチームワークが築けました。

2月に行われた全日本実業団ハンドボールチャレンジ2004では、主力選手が数名欠けた中でも、絶対諦めない気持ちとチーム一体となった集中力で、二試合連続の延長戦も乗り切りながら敗者戦を勝ち進み、見事奮闘賞を獲得し、周南市を少しはアピールすることが出来たのではないかと思います。大会役員の方をはじめ関係者の皆様には大変感謝しており、この紙面をお借りしまして御礼申し上げます。

最後に周南市はフグはえ縄漁発祥の地であり、フグ料理の店も多数ありますので、近くにお立ち寄りの際は、ぜひ本場の天然トラフグをご賞味下さい。



試合内容ダイジェスト

【1回戦／2回戦】

1／2回戦で特に白熱した戦いは、トクヤマ対常陽銀行の試合で前半の立ち上がりは両者とも点を取り合い3対2でトクヤマがリードしたが7分過ぎから常陽銀行の猛攻があり、横江選手と村島選手のアグレッシブな攻撃で、13分までに5連取し、一時は4点差まで広げた。しかし、16分からトクヤマも佐伯選手らが発奮し、20分で同点としその後一進一退を繰り返し、前半は10対9と常陽銀行リードで終了した。

後半に入るとすぐにトクヤマも同点に追いつき、中盤まで競り合いが続いた。その後常陽銀行は15分過ぎより3連取し、主導権を握り、3点差としてこのまま逃げ切るかと思われたが、タイミング良くトクヤマはタイムアウトをとり作戦を伝え、リズムを変え反撃を待った。これが功を奏し、終盤はGKの好守もあり4連取し一気に逆転。きわどい攻防であったが猛攻に耐えトクヤマが日本リーグ経験を活かし逃げ切った。

【準々／準決勝】

準々決勝では、トクヤマの出来が注目されたが、ポイントゲッターの保科・坂根・広中・中村朗各選手を欠く攻撃が少々迫力を欠いた。佐伯選手が気を吐くが、後半の中盤あたりから自衛隊久里浜の猛攻にあい、7連取が響きなんとか追いすがるが、力強い自衛隊久里浜の速攻にかわされ惨敗した。

準決勝はシード4チームが勝ち進み、昨年と同じカードになった。

準決勝の初戦は、デンソーファドレスと豊田自動織機の戦いとなり、お互い手の内を知り合った間柄であり、やりにくい点もあったが雪辱を期すという点で豊田自動織機は序盤から勢いがあった。前半7分までは、3対1と豊田自動織機が勢いのままリードしていたが、デンソーはDFを固め速攻が出始めたら止まらず、なんと12点連取し前半を13対3で終了した。デンソーは後半主力選手を休ませる余裕ができ、結局前半の差の分で試合が終了した。豊田自動織機の雪辱は来年まで持ち越された。

準決勝2ラウンド目は、試合の後半10分まで接戦で展開。一進一退を繰り返したが11分過ぎより、自衛隊久里浜のミスで金沢市役所に速攻され4連取されたのが響き、果敢にポストを使ったプレーで応戦するが金沢市役所のDFも固く、点差が縮まることなく終了の笛を聴いてしまった。

【敗者戦総括】

1回戦惜しくも敗れたチームによる敗者戦は観ている者に自然と拍手が出るようなプレーの連続であり、一生懸命さが伝わる好試合が展開された。特に、周南市役所チームは2試合連続で延長戦を戦っての、敗者戦優勝であり、本当に価値のある戦いぶりであった。試合後選手に感想を聞いたところ、一試合余分に戦ったような感じで、普段練習は多くやっていないが、コツコツとやってきた事がここで報われたような気がして良かったと話していた。

【3位決定戦】

前日惜しくも、決勝進出を逃した自衛隊久里浜は臆することなく積極的に戦い、又豊田自動織機も昨年のリベンジとばかりに前半から1点を争う好ゲームとなった。

前半18分、自衛隊久里浜は2点リードされた時にタイムアウトを取り流れを変えた。そしてチームに一体感が生まれ、3連取して一気に逆転し前半を1点リードで終了した。

後半に入ると前半の勢いのまま、自衛隊久里浜の攻撃が続きGKの好守もあり4点のリードとなった。その後も、2番の松本選手から展開されるパスワークに他の選手が応え、的確に得点を加点し優位に進め、DFもGKを含め足が良く動き、豊田自動織機の攻撃の芽を摘み、連取点を防ぎ勝利した。



【決勝戦】

昨年と同一カードとなり、金沢市役所は悪夢のような昨年の大敗を払拭するかのように気合の入ったDFで、デンソーファドレスの攻撃を封じた。しかし、デンソーファドレスの武田選手の小気味良いシュートが序々に決まり、金沢市役所の牙城が10分過ぎに崩れ始め5対1の劣勢になった。その後もデンソーファドレス山内選手の豪快なミドルシュートが決まり、このままリズムがデンソーファドレスにいってしまうのかと思われた。しかし、金沢市役所のGK秋田選手の神がかり的なキーピングで、失点を防ぎ攻撃も能浦選手を中心に速攻を出し1点差までに追い上げた。

後半に入ると、すぐ金沢市役所が同点に追いつき俄然試合は伯仲してきた。その後も3点デンソーファドレスが連取すれば、金沢市役所も同じく3点連取するといった手に汗握る熱戦となった。後半9分には、この試合初めて金沢市役所が1点リードに成功した。その後デンソーファドレスも、16分には20対17と引き離しに入るが、金沢市役所も粘って4点連取し逆に1点リード。ここでデンソーファドレスはタイムアウトし作戦を立て直した。相手の退場の間に応えたのが山内選手、日の覚めるようなシュートで同点とし、一人足りない金沢市役所のDFを遠慮なしに攻める。残り1分で2点差とし相手に1点入れられたが、慌てることなく落ち着いて15秒前に1点返し、合計で24対22で勝利をものにした。

試合を振り返ると、退場者を出した時に両チーム得点していることが目立ち、ゲームの終盤に退場者を出した金沢市役所が苦しい戦いとなってしまった。デンソーファドレスは試合の流れを的確につかみリードしていくことは、ベンチワーク含め試合巧者ぶりが評価される一戦となった。

大会の特別MVPは大会得点王（28点）としてデンソーファドレスの優勝に貢献し、キャプテンとしてチームを引っ張った、飯山秀俊選手に贈られた。



優勝のデンソーファドレス



準優勝の金沢市役所



3位の自衛隊久里浜

NTS2004報告

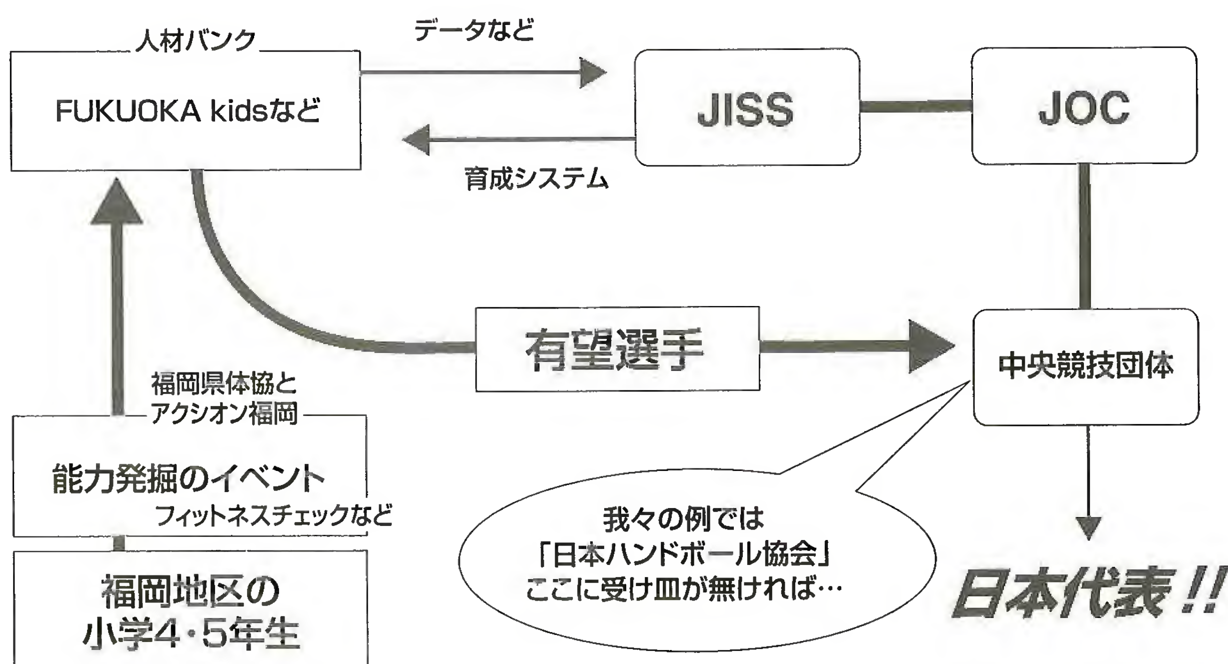
NTSコーディネーター　栗山　雅倫

皆様方に支えられ、NTSもいよいよ5年目に突入いたしました。今後とも、益々のご指導ご支援をお願い申し上げます。さて、今回は、一貫指導システムの全競技的な、更に言えば、わが国の全体的な流れについて、情報を提供させていただきます。

皆様ご存知の通り、一貫指導システムは、最早、すべての競技に届く勢いで展開されております。背景には、文科省のスポーツ振興基本計画、そしてJOCゴールドプランが存在し、各競技団体を牽引しています。その動きは、各中央競技団体のみならず、日本体育協会主導で、都道府県の体育協会も既に動いています。先般、日本経済新聞（平成16年1月29日）にも、福岡県での例が取り上げられました。福岡県では、国立スポーツ科学センターと、JOCによるモデル事業として、「競技横断型のタレント発掘プログラム」を展開することになっています。分かり易く言えば、タレントの人材バンクを作り、各競技団体に人材を提供する仕組みを立ち上げるということです。

図に示したものは、先述の日本経済新聞に掲載された、福岡でのモデル事業のイメージ図に筆者が加筆したものです。この図からお分かりいただけますように、我々競技団体は、JOCや、地域の人材バンクから、データや人材の提供を受けられる仕組みになっています。このような事が実現すれば、現在NTSで展開している競技団体内での人材発掘育成に加え、プラスアルファの人材発掘育成が大いに期待できそうです。更には、このモデルは早期（小学生段階）の人材バンク構築を目指しており、優秀で適した人材に、中学生の時期くらいから、ハンドボールに仲間入り･･･ということも可能になるかもしれません。

まだまだ現実になっていない話ですが、確実にこのような動きが出てきていることは事実です。しかしながら、折角仲間入りしてもらう人材にも、それを育成していく受け皿が、我々の競技団体が備えていなければ、実現も先延ばしになることは避けられません。今以上に、NTS、すなわちハンドボール競技の「一貫指導システム」を充実させていく必要性は明確です。



(財)日本ハンドボール協会ではハンドボールの実践研究推進校を募集しています

1　**趣旨**

小学校における教材としてのハンドボールの課題について、総合的に実践研究を行ない体育科授業の充実を図るとともに、ハンドボールの普及を図る。

2　**対象推進校**

各都道府県協会より推薦された小学校の中から20校程度選定する。

3　**経費**

日本協会は、研究委託費として予算の範囲内で支出委任する。

4　**応募**

平成16年5月31日(月)

5　**申込、および問合せ先**

応募の際には以下にお問い合わせ下さい。

(財)日本ハンドボール協会学校体育ハンドボール検討委員会（代表　佐藤　靖）

〒010-8502　秋田市手形学園町1－1　秋田大学教育文化学部

スポーツ・健康教育講座　佐藤研究室　　TEL／FAX：018－889－2577

◆ハンドボール・アラカルト◆　切手に見るハンドボール（6）

今回も前回（3月号）に引き続きオリンピック切手を紹介致します。今回は1980年のモスクワ大会です。モスクワ大会はソ連のアフガニスタン侵攻に抗議して西側諸国がボイコットし、日本も不参加を表明しました。男子ハンドボールはすでにアジア大陸代表権を得ながら日本オリンピック委員会の決定で不参加、幻のオリンピック戦士と呼ばれました。

男子は12カ国、女子は6カ国が参加しました。優勝は男子は延長戦の末に東ドイツが、準優勝地元ソ連、3位はルーマニア。女子リーグ戦で行われ優勝は5戦全勝で前回に続きソ連、準優勝ユーゴ、3位は東ドイツでした。

幻のオリンピックチームの監督は竹野奉昭氏、コーチ東嘉伸氏、本田洋氏、木野実氏、選手はＧＫ福井秀人氏、ＦＰ津川昭氏、穂積豊彦氏、蒲生晴明氏など。

モスクワオリンピックのハンドボール切手は共産圏諸国で多数発行されています。今回はその中から開催国ソ連（切手①)、朝鮮民主主義人民共和国（切手②)、ベトナム（写真③)、英領ベリーズ（切手④）を紹介します。



切手①


切手②



切手③



切手④

浦添市に続こう

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

03年最後を締めくくる日本リーグプレーオフには、過去に見られないほど多くのファンが詰め掛ける盛況ぶりだった。ホンダ、広島メイプルレッズがチャレンジした球界初のＶ６に関心があったのかどうかはともかく、観客席をいっぱい埋め尽くすことは、プレーする選手にとっては燃えるひとつの材料であると同時に、一瞬たりとも手抜きが出来ない緊張感の連続であることも間違いないところである。

球界の発展にはこうしたファンの後押しは絶対に欠かせないエネルギーである。今回詰め掛けた多数のファンを、新しいシーズンの各大会でも動員したいものだし、しなくてはならないことでもある。

その多くの熱狂したファンをみながら思い出したのが、新春1月17日に行われた沖縄県浦添市の「ハンドボール王国都市宣言」である。

全国には「○○の街」などと競技名をつけた街はあるものの、王国都市宣言をしたのは今回の浦添市がおそらく初めてではないだろうか。

ご存知のように沖縄県は小学生から一般までそれぞれのカテゴリーで強力な戦力を誇っている。これまで合わせて38回の全国制覇を成し遂げているという。その中心が浦添市である。ここからは全日本メンバーで現在フランスのニームで活躍中の田場裕也選手やオムロンの佐久川ひとみ選手、東濱裕子選手らを送り出している。

そうした背景があるとはいえ「王国都市宣言」が行政主導で行われたことは、まさに画期的な出来事であると言わざるを得ない。式典会場には1200人もの人が集まったというからその熱い心意気が伝わってくるようだ。

浦添市のハンドボール熱の根源は、垣根を越えた街ぐるみの一貫指導体制にあるといっていいだろう。また、県外遠征補助費用の支援も充実している。こうした力強い支えがあってこそ「強い浦添市＝沖縄県」が存在するともいえるが、こうした熱意にこたえようとする選手の日ごろの努力も無視は出来まい。

今後は以前にも増していろいろなバックアップ事業が計画されているようだが、全国に波及してくればもっとうれしいことである。やはりこれからのスポーツは地域との密着が欠かせないことは明らかである。

「浦添市に続け」と他の都道府県からの名乗りが聞こえてくることを切に願っている。



集中連載⑤ スペイン研修報告

日本ハンドボールリーグ機構GM
田中　茂

プロスポーツ選手の意識と自覚

今月はスペイン国内だけではなく、海外からも関心の高いサッカーの「FC BARCELONA 対 REAL MADRID」の伝統の試合が BARCELONA で行われた時のことを述べたいと思います。それは、その試合から見えたプロ意識、サッカーやハンドボール選手のプロとしての認識の高さ、プロとしての振る舞いについてお話ししたいからです。併せて、私が実際に現場での指導経験をもとにヨーロッパ選手の意識、考え方の違いについて紹介いたします。

これは、近年、日本国内にもプロ選手として契約選手が出てきていることに対してのアドバイスになるかもしれません。また、スペイン人（ヨーロッパ）の練習、試合に取り組む考え方の違いについて着目していただければと思います。

1）「FC BARCELONA VS REAL MADRID」サッカーの試合を観戦して

バルセロナ市民にとってマドリーとの試合はサッカーの試合以上に負けられない歴史があり、市民の関心の高さ、興奮度などは日本人が想像する以上の、異常なものがあります。

また、FC BARCELONA は13年間リーグ戦、ホームゲームは REAL MADRID に負けなしとあって、選手もこの試合に対する思い入れはワールドカップ以上のものがあるそうです。

試合内容は2000年まで FC BARCELONA に所属し、その後、高額な契約で REAL MADRID に移籍したフィーゴ選手に対しスタジアム11万8千人の観衆は、彼が会場に入場した際や、彼がボールを触るだけで、大ブーイング。また彼がコーナーキックを蹴る際には、ウイスキーのボトル、豚の顔などいろいろな物が彼に向かって投げられました。見ている私でも観客の異常さに恐怖を覚えたぐらいです。そのたびに試合は中断され REAL の選手はベンチに引き上げるのですが、結果的にまたこの、行為が観客のブーイングを呼んでしまう結果になります。ここでの罵声はとてもここに書けるものではありません。結果は両チーム共にプライドと意地のぶつかり合いで厳しい試合展開となりましたが、引き分けで終わりました。

2）プロ意識とは何だろうか

私が注目したいのは、フィーゴ自身の試合後の記者会見です。記者の「試合はあなたにとって厳しく危険な試合となりましたが、恐怖心はなかったか、冷静に試合をする事が出来たか？」という質問に彼は、「私の仕事はどんな時でも、どんな状態であっても100％のプレーをすることだけだ。観客が私に対し興奮や憎しみを持ち危険な状態ではあるが、コーナーキックを蹴るのは、私の仕事だ、それ以外の事は考えない。」と言っていました。

ここに彼のプロとしての精神、人間としての精神力の強さを感じました。私は同じ人間、同じ競技者として彼らの様な精神力はどこから来るものなのかわかりませんが、普段からのプロとしての意識の高さ、また常に高いレベルでの試合を通し養われているのではと思いました。

日本人が良く口にする、経験とはこのような事を言うのではないでしょうか。国内の試合でもワールドカップ以上の厳しい試合を常に経験できることにより、人間としての精神的強さが養われるのではないでしょうか。このことは日本人が国内大会で経験することの出来ない課題であると思います。

3）言い訳は悪くない

私自身は FC BARCELONA のBチームを指導していました。チームも11試合を終了し10勝1敗で現在首位となっています。10ヶ月半の指導を通し選手の考え方、また指導者の選手に対しての接触など、日本との大きな違いを感じています。

まず選手ですが、選手はどんなミスをしても自分の非を認めようとせず、自分の意見（言い訳）を最初に言いますが、決してすみませんと言う言葉を聞くことがありません。自分の考え、どうしてミスをしたかの意見を絶対に言います。

私は最初に彼らを指導して、言い訳をするなと言いましたが、今思うと彼らなりの考えでプレーをし、プレーの一つ一つを個々が責任を持って行っている事に気がつきました。従って、選手も言い訳をした以上は同じミスを繰り返す事が少ないように思うし、自覚もしているように思います。

日本では、選手が監督に意見することは、特に中学、高校、大学を通し、ないに等しいのではないでしょうか、実際に私の経験からも、監督に対し言い訳をしたことがないし、意見を言った経験もありませんでした。そのことで、ミスをしたら取り合えず、すみませんと言う言葉が先に出てきて、指導者もその言葉を聞くと、ある意味納得しているのではないかと思います。それでは、なんの問題の解決にもならないし、ミスした本人も謝ればいいのかと思ってしまいます。

日本人の指導者でどれだけの人が、選手の意見を聞いて、また考え（言い訳）を聞いて納得される人がいるかどうかはわかりませんが、私の経験上、言い訳するなと言われてしま

うのではないかと思います。このことからミスに対しての責任が薄くなり、同じミスを何度も繰り返すのではないかとも思います。（ミスをしたらまず謝るという行為にで、ミスしたことに対し考えるのではなく反省が先決となっている。）

4）責任と自覚を持たせることが大切

スペインでは上記の事と同じように、指導者も選手の意見（言い訳）を聞いて、しっかりと受け止めた後に的確な指示を出しているのがわかります。なかには、そんな言い訳通用しないだろうと感じるものであっても、選手の意見を聞き、しっかりと選手を納得させています。選手が行ったミスに対し責任と自覚を持たせる意味でも、また同じミスを繰り返す事のないように考えさせます。指導者は同じミスを犯した時にはしっかりと指摘するし、選手も自分が言ったことに対し真剣に練習から取り組む姿勢が現れます。

この事だけではないと思いますが、練習も試合でも監督の指示があり、選手個々が考え、自分の意見を持ち、試合の状況や展開が変化しても対応できるだけの柔軟な考え、アイディアをも持ち合わせているのではないかと思います。日本人選手によくある状況判断の悪さ、変化に対して瞬時の判断ができないために、指示待ち選手が多いのではないかと思います。練習でやったことに対しては結果が残せるものの、イレギュラーなケースに対しては対応ができないため結果を残せない。

指導者もそのことがわかっているから、ある程度考えられる状況は練習で行う、このことにより練習時間が長くなり集中力が欠けた練習になる。スペインでの練習時間にしても2時間以上行うことはありません。やはり、個々の対応力、応用力、判断力を練習の中から選手に考えさせて行くことが選手育成に欠かせない要素ではないかと思います。

5）ささやかな提言

上記の事は、日本とヨーロッパのスポーツの歴史の違いがあるとは思いますが、現場での指導法に関しては十分取り込んでいける事ではないかと思います。その事を踏まえ、私なりの考えを書かせていただきます。

日本での指導者の多くが教育者（先生）でありクラブ指導



FC BARCELONA B チーム（上段右から４人目が田中茂氏）

にただ単にスポーツを指導すると言った面だけではないものまでが求められているのではないかと思います。実際に、日本ではスポーツ（体育）を非常に曖昧な位置づけで、認識されている場面が多いのではないかと思います。

学校体育（部活動）は教育の一環として、スポーツ（クラブ活動）はその延長線上に位置させ、教育とスポーツを切り離した考えが出来ないのではないかとも思います。クラブを指導しているのは、教育の一環なのか、勝負に勝つための努力を日々行っているのか、どちらなんでしょう。また、両方を両立させているのか。

私見ですが、その答えも多分非常に曖昧で、時には教育の一面を覗かせ、違う場面ではチャンピオンシップ的に勝ちにこだわった一面を覗かせる。しかし、このことは実際に現場で指導されている、指導者（先生）がジレンマを一番よく感じてらっしゃるのではないかと思います。これは、今後大きな課題となってくる問題でありスポーツ界全体が考えていかなければならないと思います。

また、選手指導の私なりの意見を書かせてもらうならば、下記のことを一度試してみたらいかがでしょうか。一度、指導者が選手（生徒）の目線まで目を下ろし、じっくり話し合う必要がある。そのことにより選手（生徒）から、新たな指導法を学ぶ事も可能であるし、また、選手の考えや意識レベルの確認のためにもおおいに役立つことではないでしょうか。いつの間にか、選手の中に押し付けられた練習を行っていると言う認識があるならば改善してあげなければ、その選手の上達は得られないのではないでしょうか。

一度試してみてはいかがでしょうか。

短期集中連載：沖縄県のハンドボール④

沖縄ハンドボールの組織と将来展望



沖縄県ハンドボール協会　三輪一義（琉球大学教育学部）

4回に渡って、沖縄県のハンドボール事情をお話ししてきましたが、最終回である今回は、県協会の組織とその活動および将来展望について、まとめさせていただきます。

県協会の組織

平成13年に大幅な組織改革が行われ、総務・競技・審判・普及強化・情報の5つの委員会と、小学校・中学校・高校・一般の4つの部会が作られました。そこに協会理事79名が委員会と部会にそれぞれ1つずつ所属することで、個人の役割を明確にしています。4つの部会には、各理事の所属している学校（職場）によって配属されており、その校種ごとに5つの委員会の仕事を担当しています。各種会議は、委員会・部会ごとに開催され、縦割り・横割りで機能するようになっています。例えば、ある中学校の先生は、中学校部会と審判委員会に配置されています。この先生の出席する会議は、今週は審判委員会、次週は中学校部会といった具合です。そして、9つの委員会・部会の各代表者が常任理事になり、会長・副会長・理事長・副理事長・事務局長と合わせて常任理事会を構成しています。

協会理事は、本採用されている方、沖縄本島に在住している方にお願いしているため、教員採用試験未合格者や離島勤務者は含まれていません。そのため、県内大会や九州・全国大会の運営には、協会理事79名と理事以外のハンドボール関係者80余名、合計160名あまりのマンパワーで協会運営に取り組んでいます。

各委員会の活動内容

各委員会ではそれぞれ役割が明確にされています。

◆**総務委員会**は、①各委員会との連絡調整、②県大会の大会要項発送、③抽選会・開会式での受付・司会、④大会プログラムの作成、⑤賞状・表彰状の準備、⑥各種文書の処理・保管、⑦大会毎の会計・決算報告、⑧大会における盾・弁当の発注、⑨茶菓・ゴミ袋の準備、⑩賞状の筆耕。

◆**競技委員会**は、①抽選会場・大会会場の借用申請、②抽選会の実施、③大会オフィシャルの確保・指導、④競技道具・書類の準備・保管、⑤競技場の準備・後片付け指示、⑥大会試合球の調達。

◆**審判委員会**は、①大会審判割の編成、②各大会での審判指導、③審判手当ての支給、④審判講習会の開催、⑤審判員の養成。

◆**普及強化委員会**は、①県全体の競技力向上対策、②指導者の招聘・派遣、③公認指導者の養成、④指導者講習会の企画・運営、⑤ハンドボールの研究と普及事業の企画・運営。

◆**情報委員会**は、①県内・国内のハンドボール情報の提供、②抽選会場での組み合わせ印刷・配布、③大会選手名簿の打ち込み、④大会結果のコンピューター打ち込み、⑤大会結果の報道機関へのFAX、⑥大会結果の理事への発送、⑦協会名簿の作成、⑧年間記録集の発行。

この5つの委員会を統括する事務局は、理事長・副理事長・事務局長と一部の常任理事で構成され、①　年間予算・事業計画の立案、②協会会計の管理・報告、③年間登録事務、④協会公文の管理、⑤会議録の管理、を責務としています。

大会運営

県協会が主催・主管する県レベルの大会は、年間で18大会になります。これに日本リーグや九州・全国大会が加わります。小学生大会は3大会、中学生大会は4大会、高校生大会は5大会、一般大会は6大会が開催されています。特徴的なことは、各大会には所属する校種の先生方だけでなく、小学校の大会に中学や高校の関係者、中学校大会に小学校や高校の関係者など、審判や運営協力、観戦や教え子の応援など、役割分担をしながらも全体で運営していく環境になっていることが挙げられます。

各大会には必ずプログラムを作成し、組み合わせや選手名簿、過去の記録などをまとめて、1部200円で販売しています。小・中学校の大会プログラムには、ボランティアの写真家の方のご協力により、選手のカラープレー写真をサムネイル形式で80枚掲載しており、観戦にきた保護者の方々を中心に大好評を得ています。販売売上金は県代表選手の県外遠征費等に当てられることになっており、少しでも子供達の負担を減らすことに努力しています。

沖縄ハンドボール女子リーグ

一般の6大会の中に他県ではあまり例を見ない大会があります。通称「女子リーグ」と呼ばれている企画・運営・実行のほとんどを女子選手自身で行う大会です。いろいろ試行錯誤をしながら今年で9年目を迎えますが、出場チームは毎年9～12チームで、9月から1月までの5ヶ月間、平日夜間（20：30～）に各チームの普段の練習場所を試合会場にして、総当りのリーグ戦を行います。12チーム参加で全66

試合になります。単純計算でも3日に1試合は県内のどこかで試合が行われていることになります。大会参加人数は毎年150名を超えます。審判もそのほとんどを女性ペアで担当し、男性の上級審判がアドバイザーとして毎試合必ず立会い、女性レフェリーの育成も行っています。選手平均年齢は25.9歳（第8回大会）で、高校卒業直後の18歳から、強豪大学から帰ってきたばかりのバリバリの22歳、34歳の元全日本選手、49歳の往年の名プレーヤーまでが同じコートで"技"を競い合います。

1年に1回程度、大会に参加してハンドボールを思い出すことは他県でもよくあることかもしれませんが、特に女子においては、高校や大学を卒業するとハンドボールを楽しみながら継続してプレーする機会がほとんどなくなってしまうことが多い日本の現状です。ハンドボールが生涯スポーツとして日々の生活の中に取り込まれていることは、小・中・高の競技力と並んで沖縄のもうひとつの誇りでもあります。特に「マミーズ」という平均年齢40.3歳の「お母さんチーム」の存在が目を引きます。マミーズに限らず、子供を出産してから「選手復帰」するお母さんプレーヤーが多くのチームに存在し、試合会場のコートの周りが"保育園状態"になることはごく普通の光景です。このことは、長い目で見た沖縄ハンドボール界の人材確保にもつながることになり、ヨチヨチ歩きの頃からハンドボール競技に触れて育った二世選手が、このあと小学校・中学校に数多く見られることになることを楽しみに待っています。

沖縄ハンドボールの課題

これからの沖縄の課題は「指導者の養成」にあるのではないかと思います。特に沖縄の屋台骨を支えている小学校指導者の育成は大きな課題であります。NTSのなかに「見つけ、育て、活かす」という言葉がありますが、選手だけでなく指導者養成にも同じことが言えるのではないでしょうか。沖縄の小学校指導者は地域の保護者が大きな役割を担っています。学校の先生だけに頼るには限界があり、地域のスポーツ指導者として、特にそれがまったくの素人の保護者の方であっても、正しいスポーツ指導理念やハンドボール理論、技術・戦術から審判法まで、正しく伝えていくことが重要になると思われます。勝利だけに執着したり、子供の心身の発達を阻害する恐れのある経験主義的な取り組みは改善していかなければなりません。



写真提供：スポーツイベント社


興南高校男子ハンドボール部　　写真提供：スポーツイベント社

財源の確保も大きな沖縄の課題です。沖縄は県外遠征には必ず大きな移動費が掛かる離島県なのです。そのハンディを乗り越えるためにも、大口のスポンサー的存在が皆無な県事情のなかで、「協会理事自らがいろいろな汗を掻いて、子供達の成長・喜びのために努力しなければならない」との県協会理事長の言葉は耳に残ります。

沖縄ハンドボールの展望

3月の全国高校選抜大会は、男子・興南高が2連覇、女子・浦添高が準優勝とハンドボール王国を象徴する結果を残して閉幕しました。これで県勢39回目の全国制覇となり、40回に王手が掛かりました。この沖縄ハンドボールが一過性のブームで終わらないように、頂点が有頂天にならないように、協会関係者全員が気持ちをあわせて、適材適所の役割を果たし、確実に一歩一歩進んでいくことが大切であります。競技力だけでなく、大会運営、審判、普及においても日本のトップクラスを目指すことが県内関係者の願いです。

終わりに

昨年6月に日本協会派遣員として、元瓊浦高監督で当時筑波大大学院の樫山祐子さんが、沖縄の歴史と小学校での取り組み体制について調査に来られ、その成果を協会報告書や修士論文で素晴らしくまとめて頂きました。また、一昨年の11月には国内唯一のハンドボール情報誌であるスポーツイベント社の野村彰洋さんが1週間に渡り沖縄を訪問し、人材にスポットをあてた沖縄の特集記事で、全国に沖縄ハンドボールをアピールして頂きました。沖縄県外の方々に沖縄について客観的な視点からいろいろな評価をして頂き、沖縄の今後を考えていく上で非常に重要な示唆にあふれていました。沖縄県協会にとっても、日本協会にとっても貴重な資料であると思います。この連載のなかのいろいろな視点も、この論文や記事から数多く導き出されました。

最後に、私が愛知・桜台高を卒業し、筑波大を経て、縁あって沖縄にお世話になってから12年目を迎えます。この連載をきっかけに、自分の中での長年の宿題であった沖縄ハンドボールを整理する機会を頂いた機関誌編集委員会に心より感謝申し上げます。併せて、多くの反響をお寄せ頂いた全国の皆様、日本協会関係者、そして何よりも沖縄県協会関係者の方々に深く御礼申し上げて、この連載を終わりとさせて頂きます。本当にありがとうございました。

イーハトーヴ花巻にハンドボールの輪を広げよう！　番外編

花巻市のキーマン紹介



花巻市ハンドボール協会事務局　**中島昭博**（花巻北高等学校）

前回まで２回連載しました「イーハトーブ花巻にハンドボールの輪を広げよう！」の番外編として花巻市のキーマン２名を紹介いたします。（併せて柏葉さんが、花巻の小学生ハンドボーラーあてに作ってくれた文章を紹介致します。）行事をおこなう際に最も大切なのは人です。花巻市ハンドボール界には素晴らしい人がたくさんいます。

キーマン紹介❶　柏葉公平さん



宮澤賢治ゆかりの林風舎（りんぷうしゃ）（関連グッズ管理ショップ＆喫茶店）勤務。25歳。

花巻中学校・盛岡第一高校ハンドボール部出身。アメリカの大学卒業後、ワシントンD.C.でのNGO活動を経て、花巻に帰郷。ワシントン時代には元アトランタオリンピック代表選手も所属するハンドボールクラブに在籍した。現在、花巻クラブでプレーしながら、花巻中学校・花巻南高校・花巻クラブJr.を指導している。市の国際交流関係の仕事や起業マネジメント講座を受講している関係から「いわてNPOセンター」の活動にも精力的に携わっている。彼が参加していたワシントンD.C.ハンドボールチームのHPの写真やメンバーをご覧いただければ、グラス（芝生）ハンドボールの様子やチームの雰囲気を理解していただけるでしょう。

また、アメリカハンドボール協会のメールマガジンとアメリカハンドボール界のニュースや大会情報など興味のある方は、下記URLとアドレスまで。

ワシントンD.C.ハンドボールチームのHP：
http://www.dcdiplomats.com
アメリカハンドボール協会のウェブサイト：
http://www.usateamhandball.org
自宅アドレス：kk935@hotmail.com

参考資料　アメリカにおけるハンドボール

柏葉公平

アメリカ人はハンドボールを知っているの？

アメリカ人に「ハンドボールって知ってる？」という質問をすると、たいてい「知らない」という答えが返ってきます。「知っている」と答える人もたまにいるのですが、「こうやるんだよね」と言いながらなぜか卓球の素振りのような動作をしてみせるのです。

実は、アメリカにはいわゆる「アメリカ式ハンドボール」というものがあって、それは私たちがやっているハンドボールとは全く違うスポーツなのです。「アメリカ式ハンドボール」は、グローブをはめた手で壁にボールを打ちつけ合う、１対１または２対２で行う競技です。

これに対して、私たちが普段慣れ親しんでいるハンドボールはヨーロッパから伝えられたものです。デンマークやドイツなどで現在の形が作られていったため、イギリスやアメリカなど英語を話している国では、このヨーロッパ式のハンドボールはあまり行われなかったようです。

ところが近年、1996年に開かれたアトランタオリンピックのおかげで、アメリカでも少しずつハンドボールが知られるようになってきました。アメリカでは、個人でやるアメリカ式ハンドボールと区別するために、私たちがやっている競技を「チーム・ハンドボール」と呼んでいます。

アメリカではハンドボールが行われているの？

残念ながら、アメリカではハンドボールが一般的に知られていないため、競技している人口は多くありません。しかし、1996年にオリンピックが開かれたジョージア州アトランタを中心に、近年では一般のクラブチームも作られるようになってきました。アメリカハンドボール協会のウェブサイトによると、現在18の州にそれぞれ１つまたは複数のクラブチームが存在しています。

ハンドボール部がある大学もいくつかあります。数は少ないですが、有名なところではマサチューセッツ工科大学や、バスケットボールの名選手マイケル・ジョーダンが卒業したノースカロライナ大学などがあります。また、大学と同じように、陸軍・空軍士官学校にもハンドボール部があります。

さらに、日本には珍しい聴覚障害者によるハンドボールチームもあります。このチームは、アメリカ代表でパラリンピック（障害者のオリンピック）にも出場しています。

競技人口は多くありませんが、いろいろな人に競技するチャンスを与えようというのがアメリカのハンドボールの現状です。

クラブチームでの体験を教えてください。

私はワシントンＤＣにあるクラブチーム、DC Diplomats（ディプロマッツ＝外交官たちという意味）に所属していました。アマチュアのクラブチームで、ワシントンＤＣの市内や近郊在住でハンドボールに興味があれば、誰でもメンバーになれるチームでした。しかし、アメリカの首都にあるとはいえ、上に書いたようにハンドボールはあまりアメリカ人に知られていません。実際に集まってきたのは、私を含めて自国でハンドボールを経験してきた人でした。

様々な国の出身者が集まりました。西ヨーロッパからはハンドボールが盛んなフランスやスペイン、また東欧の国ではスロバキアやルーマニアなどから来た人たちがチームに参加しました。コーチはかつてエジプトのナショナルチーム経験者、そしてチーム唯一のアメリカ人だったキャプテンは、アトランタオリンピックのアメリカ代表でした。

ハンドボールの知名度が低いため、私たちの練習環境は決していいものではありませんでした。近くの体育館を借りて週末に練習していましたが、ゴールはフットサル用のものを使わなければならなかったし、ラインも一回ごとにテープを貼らなければいけませんでした。体育館の中でも松ヤニを使いますが、松ヤニやボール、シューズを含めて、ハンドボール用品はなかなかアメリカ国内では買うことが出来ないので、それぞれが通信販売などで買うか、自分の国から送ってもらうかして調達していました。



同じ州内にチームがないので、大会は全て他の州に遠征となります。招待試合が主ですが、年に一度クラブチームの全国大会もあります。私たちのチームはアメリカ東部のチームを集めた大会などに出場していました。中には陸軍士官学校で行われた招待大会もありました。

自分が実際に試合をしてみて、アメリカ人はとても当たりが強いと思いました。多分、アメリカンフットボールを経験しているからでしょうか。また、黒人の身体能力には目を見張るものがありました。ただ、欧米人は感情をストレートに表に出したり、すぐ主張や抗議をしたりするので、日本人の感覚からすると少しスポーツマンシップに欠けるように見えるかもしれません。

アメリカのハンドボールはまだまだ発展途上です。私たちのチームのように、ほとんどのクラブチームには、必ずと言っていいほど外国のハンドボール経験者が入って教えたり一緒にプレーしたりしている状態です。アメリカ人も外国人からハンドボールについて学びつつ、もっとアメリカ国内での競技人口を増やしていくことがこれから重要になってくると思います。

キーマン紹介❷ 根津辰行さん

一関工業高等専門学校機械工学科助教授。

台湾の生まれで、現在は日本国籍を取得して８年目。スペースシャトルの翼素材の強度特性など、半導体を材料とする素材の強度を研究している Ph D.Eng 工学博士。４年前大手企業の総合研究所の技術部長職から現職に転職した。台湾時代ジュニアナショナルキャプテンをつとめた経歴を持ち、昨年から勤務先のハンドボール部監督に就任したことにより、約30年ぶりにハンドボール界に復帰した。台湾時代、大崎電気チームとの親交も深い。

昨年の神戸アジア予選では、台湾チームの総監督（台湾ハンドボール協会副会長 許武雄 氏）が高校時代の恩師という縁から帯同チーム顧問及び通訳を担当した。そこで全日本チームと交流する間に、宮崎大輔選手とも親交を深め、直々に本人からもらった“ユニホーム＆色紙”が研究室に飾られてある。コーチングはもちろんのこと、レフェリングの向上心も旺盛で、昨年申請をすませて、県社会人リーグほか数試合を私とペアで吹笛した。

台湾には自家自営烏龍茶工場がある。最高級高山烏龍茶の品評（茶道）に興味ある方や台湾と交流を希望する方は、下記までご一報下さい。

近、新築した家に東京出身の奥様と二人暮し。47歳、一関在住。

E-mail：kelvin@ichinoseki.ac.jp



筆者とペアでレフリーする根津氏（写真左）

スコアールーム　全日本実業団ハンドボールチャレンジ2004

開催期日：平成16年2月20日(金)～22日(日)
会　　場：ホンダアクティブランド体育館、鈴鹿市体育館、三重県立稲生高校体育館

■1回戦

岩国市役所(山口)　21（11－7、10－8）15　日本原子力研究所(茨城)

■2回戦

デンソーファドレス(愛知)　32（17－2、15－3）5　岩国市役所(山口)
セントラル自動車(神奈川)　23（9－10、14－10）20　プラザー工業男子(愛知)
北電エコまる(福井)　23（13－7、10－11）18　マツダ(広島)
豊田自動織機(愛知)　24（14－3、10－3）6　周南市役所(山口)
自衛隊久里浜(神奈川)　26（14－7、12－10）17　三洋電機(岐阜)
トクヤマ(山口)　20（9－10、11－9）19　常陽銀行(茨城)
日本耐酸壜(岐阜)　24（15－9、9－12）21　新日本石油根岸(神奈川)
金沢市役所(石川)　33（16－2、17－8）10　新日鐵名古屋(愛知)

■準々決勝

自衛隊久里浜　23（9－8、14－8）16　トクヤマ
豊田自動織機　24（13－6、11－4）10　北電エコまる
金沢市役所　25（15－3、10－10）13　日本耐酸壜工業
デンソーファドレス　24（13－8、11－9）17　セントラル自動車

■準決勝

金沢市役所　19（8－7、11－6）13　自衛隊久里浜
デンソーファドレス　24（13－3、11－11）14　豊田自動織機

■決勝

デンソーファドレス　24（10－9、14－13）22　金沢市役所

■3位決定戦

自衛隊久里浜　21（8－7、13－6）13　豊田自動織機

<敗者戦>

■1回戦

プラザー工業男子　22（11－7、11－11）18　日本原子力研究所
周南市役所　24（7－5、9－11）18　マツダ
（5－1延長3－1）
常陽銀行　20（11－7、9－6）13　三洋電機
新日鐵名古屋　23（8－9、15－8）17　新日本石油根岸

■準決勝

周南市役所　21（6－9、10－7）18　プラザー工業男子
（1－1延長4－1）
常陽銀行　25（13－9、12－11）20　新日鐵名古屋

■敗者戦・決勝

周南市役所　26（14－11、12－6）17　常陽銀行

<表彰>

スパイダー・ジャパン協賛

☆敢闘賞　周南市役所
☆最優秀チーム賞　デンソーファドレス
☆最優秀選手賞（MVP）　飯山秀俊（デンソーファドレス）





平成16年2月常務理事会

日　時：平成16年2月7日(土)
場　所：岸記念体育会館503号室
出席者：山下副会長、大西専務理事、常務理事8名、監事2名、参事2名、事務局4名、機関誌1名

審議事項

1. 平成15年度第3次補正予算（案）
2. 平成16年度事業計画（案）
3. 平成16年度事業予算（案）
以上一括審議

平成16年度予算については、当会議に先立つ1月31日両副会長、専務理事、常務理事3名による予算会議により作成し直すことが決定、再提出されたもの。来年度予算総額に対する重要点として
- 各事業の支出を極力削減する
- ムササビシャツ事業は一応平成15年度で経理上は締め、以降の売上げは収益となるのでさらに販売は継続
- 協賛金の一層の確保、などの説明があり承認された。

協賛金については、アテネ体制から北京体制に移行したいものの、社会的には開催がこれからのアテネが注目を浴びており、また一方、神戸予選の試合結果から各企業に対する説得力も現実として弱くなっている。全体としてアテネ特別委員会設立以前の状況に戻ったことを認識しておく。平成17年度には登録金増額は避けられない状況であり、理解・納得を得られるように今から機会を捉えてPRしておく。了承。

4. 規程集について
『寄付行為』中i)“EAHF”設立・加盟の件、ii）理事数を21～23名に、副会長を3名にする件の変更につき文科省との折衝の経過説明。原則として文科省は“文部省”という表記が“文部科学省”に自動的に変わる以外は、昭和56年発行の規程集／寄付行為の変更に否定的であることが判明。過去の役員会にて表決されているにも拘らず、規程集／寄付行為に反映されていない点がその他にもあるため、6月理事会を目途にもう少し整理に時間が必要。

常務理事の業務分掌規程について、既に活動しているマーケティング委員会、競技運営委員会、NTS運営委員会の3委員会の位置づけを検討、規程集に含めることを承認。

5. 事務局体制について
6月以降の経理担当について、新規に補充ではなく内部の人材を充てて経費削減を図る。

6. アジア女子ビーチハンドボール大会の件
開催権料、AHF役員・レフェリー旅費等含めて経費が必要と思われる。予想される必要経費を算出しておく。

車椅子ハンドボール連盟・大会について別途配布の資料参照。管轄は厚生労働省ながら、日本協会役員名もプログラムに記載されており、“ハンドボール”の名称が使われている以上、日本協会からの管理（届出・登録・認知など）が来年度からは必要ではないかとの意見があった。

7. 各大会マニュアルの件
まもなく完成、配布の予定。

8. ゴールポスト転倒防止の件
事故を未然に防ぐため、2月1日付にて各関係先に通知済み。

9. 懲罰委員会召集の件
日本リーグ1月17日ホンダ熊本対アラコ九州戦におけるヴォル選手の件。懲罰委員会を開くかどうか、日本リーグの該当用紙（処分・報告）の不備点、懲罰規程の適用方法、再発防止のための方策等をさらに検討する。一方、時期を外しては意味が不明確になるため、個人選手の裁定については年3回のみの理事会の議決を待たず、常務理事会で決定することを理事会に提案する。承認。

10. 平成16年度専任コーチ、ジュニア強化コーチの件
昨年に引続き緒方嗣雄氏を専任コーチに、玉村健次氏、堀田敬章氏をジュニア強化コーチとしてJOCに申請する。承認。

ナショナル・メンバー選定については、海外派遣における危機管理も含め、強化委員会で規程を作っておくことを了承。

11. ステップ管理に関する通達について
平成15年4月からIHF新規則の適用をしてきたが煩雑であるとの意見があまりにも多いため、国内の実際の運用としては旧来のルールに戻す。承認。

12. 女性委員会2004活動
承認

13. 特別プロジェクト設立及び組織について
主要点として下記が挙げられた。
- 北京プロジェクトは北京に限定せず、今後はオリンピックプロジェクトとする
- 普及とジュニア育成のために地域振興特別プロジェクトを設立する
- この2大プロジェクトを核として他の部局も連動して動いていく

報告事項

下記案件について報告及び資料があった。
1. マーケティング委員会
2. 10万人サポート会
3. 日本リーグサポート会
4. 審判部合同委員会報告
5. 少年チーム活動活性化事業
6. 国際大会スケジュール
7. 平成15年度強化事業報告
8. 平成16年度登録業務必携

平成15年度第3回理事会

日　時：平成16年2月7日(土)
場　所：メトロ会館
出席者：渡邊会長、山下副会長、市原副会長、大西専務理事、常務理事8名、理事6名、監事3名、参事13名、事務局5名

会に先立ち、12月26日に急逝された学連副会長久保義雄氏に対して黙祷を捧げた。

はじめに、渡邊会長から本年を北京オリンピックに向けての本格始動の年とすることが述べられ、昨年、国体、インターハイに出席しての感想が述べられた。

次に、山下副会長から神戸組織委員会の解散式の報告と、協会財政の逼迫が述べられ、併せて登録金値上げ検討への理解と協力が述べられた。

大西専務理事から、理事会の位置づけ役割が述べられ、議事が進められた。

審議事項

1. 平成15年度第3次補正予算（案）
資料により補正の説明がなされ、承認された。

2. 平成16年度事業計画（案）
資料により、プロジェクト21、平成16年度の重点項目として①オリンピッ

クプロジェクト、②地域振興特別プロジェクトについての説明がなされ、承認された。

3. 平成16年度事業予算（案）

全般的緊縮財政案としての資料が提出された。収入の範囲での予算を組み赤字を出さないようつとめる。将来的には登録金値上げも含めて時間をかけて収入について議論を進めることが承認された。

4. 規程集の件

寄付行為の改訂についての文部科学省との話し合いの経過が報告された。副会長の定員増については改めて6月の理事会に提案し、手続きを進めることで承認された。

5. アテネ組織委員会解散の件

1月31日神戸に於いて組織委員会の解散式が行われたことが報告された。協賛企業協賛都道府県協会、市町村協会には礼状を出すことで了承された。

6. アジア女子ビーチハンドボール大会の件

千葉県富浦町においては開催可能との打診が得られている。開催権料やその他の項目でAHFとさらに条件交渉を進めて決定することで了承された。

7. 競技の健全化について

日本リーグの試合に於いて選手のレフェリーに対する侮辱行為があった。リーグより日本協会へリーグ裁定委員会の文書が添えられ、提訴された。当該チーム、選手から事情を聴取し懲罰委員会にはかることで了承された。

8. 平成16年度専任コーチ、ジュニア強化コーチの件

昨年に引き続き緒方氏を専任コーチに、玉村氏、堀田氏をジュニア強化コーチとしてJOCに申請することが了承された。

9. 女性委員会2004活動について

資料により平成16年度の女性委員会の活動計画が示され、各都道府県協会に於いて①女性指導者数を報告して欲しい。②女性担当委員（女性が望ましい）の選出が依頼された。尚、角常務理事が、女性委員会を担当することが了承された。

10. オリンピックプロジェクトについて

プロジェクトの立ち上げについて専務理事より述べられ、了承された。

報告事項

1. マーケティング委員会

ムササビTシャツの販売について報告がなされた。

2. 10万人会サポート会

都道府県協会において都道府県ファミリー会員、都道府県グランド会員の会員増をして欲しいことが述べられた。

3. 日本リーグオールスター戦

本年3月27日(土)・28日(日)山口県周南市に於いて上記大会がトップリーグ運営事業として開催されることが報告された。山口テレビで放送がなされ、特別協賛として地元企業である㈱ファーストリティリング（ユニクロ）の協力が得られた。

4. 競技規則に関する通達

本年4月1日からの競技規則の変更について説明がなされた。

5. ステップ管理に関する通達

ステップ管理についての解釈が示された。

6. 審判合同会議報告

平成15年度審判合同委員会会議報告書が提出され、説明がなされた。

7. 少年チーム活動活性化事業について

「ミニハンドボール」発行の報告と、小学生チーム創設マニュアルの作成と各都道府県協会宛配布したことの報告がなされた。

8. 国際大会スケジュール

資料により報告された。

9. 平成15年度強化事業報告

資料により報告された。

10. 平成16年度登録業務必携

本年2月22日事務取扱責任者に資料を用いて説明がなされることが報告された。

11. その他

ゴール等競技用具の安全管理についての通知を出したことが報告された。

市原副会長から渡邊会長体制での1年が過ぎようとしていること、新年度は財政基盤の確立が課題で①自立、②連携が課題であることが述べられた。本年2月カタールで行われる、アジア選手権に団長として参加すること、危険地域で行われる大会であるにもかかわらず参加する選手、その家族に敬意を表すると共に全力を尽くす決意が述べられ、挨拶後、閉会する。

平成15年度第2回評議員会

日　時：平成16年2月21日(土)
場　所：明治神宮記念会館
出席者：渡邊会長、山下副会長、大西専務理事、常務理事7名、評議員45名、監事3名、参事1名、事務局4名

議長並びに議事録署名人の選出

議長に渡逸会長、議事録署名人に川上常務理事、田中守評議員を指名、承認。

会に先立ち、本年国体開催地埼玉県より挨拶がなされ、民泊に関しキャンセルのないように依頼がなされた。

3年間高校選抜を開催した氷見市に対し、感謝状が贈られた。

学連副会長の久保氏が亡くなられたことが報告され、黙祷がなされた。

渡邊会長から以下のような挨拶がなされた。

会長就任1年が過ぎようとしている。今年は車椅子ハンドボール協会が設立された。神戸でのオリンピック予選では、惜しいところまでよく戦ったが手が届かなかった。バスケットボール女子が出場権を取り、バレーボール女子、サッカーなども出場権獲得の高い中、他競技に後れを取らないためにも北京オリンピックには必ず出場しなければならない。そのステップとして、昨日カタールでのアジア選手権兼世界選手権予選準決勝で勝った男子チームが世界選手権出場権を確保したことは喜ばしい。女子の世界選手権予選（アジア）は本年広島で開催されるので是非頑張ってもらいたい。

審議事項

1. 平成16年度事業計画

大西専務理事より資料により、日本協会の事業の柱として

①オリンピックプロジェクト
②地域振興プロジェクト

についての説明がなされ、併せてこれらを結びつけるためにNTS等の重要性が述べられた。平成16年度事業計画の件は了承された。

2. 平成16年度事業予算

資料により説明がなされ、併せて予算、支出概要がグラフで示された。協会予算は大変厳しい状態にあり、登録金値上げも含めた検討を進めることで了承。

3. 規程集（寄附行為）について

規程集の変更に関する文部科学省との交渉過程の説明が成された。昭和56年以降文部科学省に寄附行為改正の記録はない。理事定数増加の件は厳しく、今後は副会長数増加に関しての作業を進めて

いく。次回6月の評議員会に提案することで承認された。

4. 平成16年度会議日程

大西専務理事から資料により来年度は役員改選の年であり、従来と順序が入れ替わり評議員会（2/5）、理事会（2/19）とした旨提案された。事務取扱者説明会、6月評議員会の時期、今後会議時期を月内の週等で固定することに関して常務理事会で検討することとすることで承認された。

5. アテネ組織委員会解散の件

資料により大会収支が報告され、1月31日に組織委員会解散式が行われたことが報告され、承認された。

6. 平成16年度専任コーチ、ジュニア強化コーチの件

専任コーチに緒方氏、ジュニア強化コーチに玉村氏、堀田氏を推薦することでて承認された。

7. 女性委員会 2004 活動について

資料により、女性委員会の活動として平成16年度はスタートとして①女性指導者数の把握、②都道府県協会内で女性担当員の選出について説明が成され、承認された。

8. その他

男子ナショナルスタッフの選出の質問について大西専務理事より回答がなされた。併せて今後のジュニア強化、NTSとの連携について述べられた。

報告事項

9. 10万人会サポート会

資料により現在の会員数が示された。神戸でのサポート会員席は好評で、今後も様々な事柄にチャレンジしていきたい。都道府県協会に於いては都道府県ファミリー会員、都道府県グループ会員の会員増加に強化をお願いしたい。

10. 日本リーグオールスター戦

3/20、21に駒沢でプレーオフを実施する。優勝チームは東アジアクラブ選手権（ソウル・4月）に参加する。一週間後に山口県周南市に於いてトップリーグ頂点強化事業の一環としてオールスター戦を行う。トップリーグ頂点強化事業とは上記東アジアクラブ、オールスター、チャレンジカップである。

11. 競技規則に関する通達

12. ステップ管理に関する通達

上記2項目に関して別紙資料により説明がなされた。

13. 少年チーム活動活性化事業について

上記事業に関して、①「ミニハンドボール」の発行、②都道府県協会宛に少年チーム設立「リーフレット」を送付したことの説明が成された。

14. 平成15年度強化事業報告

資料により説明がなされ、男子ナショナルスタッフに関しては所属先と十分に話し合い、現体制を維持する方向で進みたい。

15. 国際スケジュール

資料により説明がなされた。

16. ゴール等の安全管理について

都道府県協会への周知徹底の依頼がなされた。

17. 平成16年度登録業務必携

都道府県協会への周知徹底の依頼がなされた。

18. その他

- 機関誌の重複送付の件に関して意見が述べられ、検討すると回答がなされた。
- 功労者表彰に関して年齢制限を設けるべきとの意見が出され、規程改定の方向で検討すると回答がなされた。
- 本年マスターズ大会（岩手）において11人制を行う予定である。
- 社会人連盟の設立に向けて準備を行う。
- 教職員大会は現在休会中であるが、今後は指導者のゲーム参加の場の新たな受け皿として教職員連盟は貢献したい。
- マスターズ大会、クラブ選手権大会を開催する母体の構想が必要であるとの発言があり、検討するとの回答がなされた。
- 北京オリンピックに向けて女子の強化策が不明瞭であるとの発言があり、強化策、予算面も含めて検討するとの回答がなされた。
- 特に女子であるが、身長の高い選手の発掘、NTSの活用が不十分であるとの発言があり、強化委員会で検討していくとの回答がなされた。
- 「少年団のコーチはボランティアであり登録制度が負担となっている面がある」との発言がなされたが、この件に関しては専務理事から登録制度の重要性が述べられ参加者から会費を徴収するなどの方法で対応して欲しいとの発言がなされた。
- 小西評議員から車椅子ハンドボールについての説明があった。

山下副会長より以下のような挨拶がなされて閉会。

貴重な意見が多数出され有意義な会となった。平成16年度は財源不足の中でのスタートとなるが、協会、マーケティング委員会も努力する。財団法人であるため収益事業は出来ないので、財源は登録料、検定料、協賛金に頼るしかない。登録金改正も含めて検討したいのでご理解とご協力をお願いしたい。女性委員会の問題は役員、日本リーグも含めて体制作りが急務である。学校週五日制の中、子供の居場所作りとしてのクラブ育成にも力を入れていきたい。今後も協会運営にご協力をお願い致します。

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」3月入会・継続会員

【北海道】松　喜美夫、小島収治　【青森】鎌田孫秀　【岩手】中舘　豊　【福島】今野雅益　【茨城】田中汀子、稲吉　繁　【群馬】伊崎克巳　【埼玉】高田　誠、齋藤和也、坂井弘元　【千葉】外山朝子、石橋　茂、石橋美保、坂本静男、勝俣裕二　【東京】後藤　登、荘林康次、松本隆平、後藤明美、西村興八　【神奈川】植村　繁、渡辺亜由美、杉山義祥、五島孝彦　【山梨】千野恒夫、奥野正夫　【長野】後藤政俊　【富山】藤井清勝、光安美津夫　【石川】谷口俊春　【福井】師田明子　【愛知】角　紘昭、蒲生晴明、西村亮治、西口貴子、浅野幹也、岡田悠衣　【三重】加藤　公　【京都】藤本　昇　【大阪】寺内啓之、四方洋子、山崎　武、神田　清、松林義政、幸田良一、本田勝亮、古庄哲則、小森園多恵子、中村博幸　【兵庫】高祖加奈子、丸茂登茂子、丸茂康子、山原一晃　【奈良】佐々木英明　【岡山】片山　透、厚沢フサ子、厚沢嘉身　【広島】門田勝正、入本和男　【香川】小早川道孝、岡川雄紀　【愛媛】越智紀子　【高知】有光正憲、清水　修、佐賀厚幸　【鹿児島】野口智春

【5・6月の行事予定】

【会議】…………………………………………………………

5月15日（土）：常務理事会

6月5日（土）：常務理事会・理事会

6月19日（土）：評議員会

※ 次号は6・7月合併号で7月1日発行です。

HAND BALL CONTENTS May

（登録チームの購読料は登録料に含む）

HANDBALL

MIKASA®
http://www.mikasasports.co.jp

高いグリップ力を実現！
ミカサの人工皮革ハンドボール



HP300

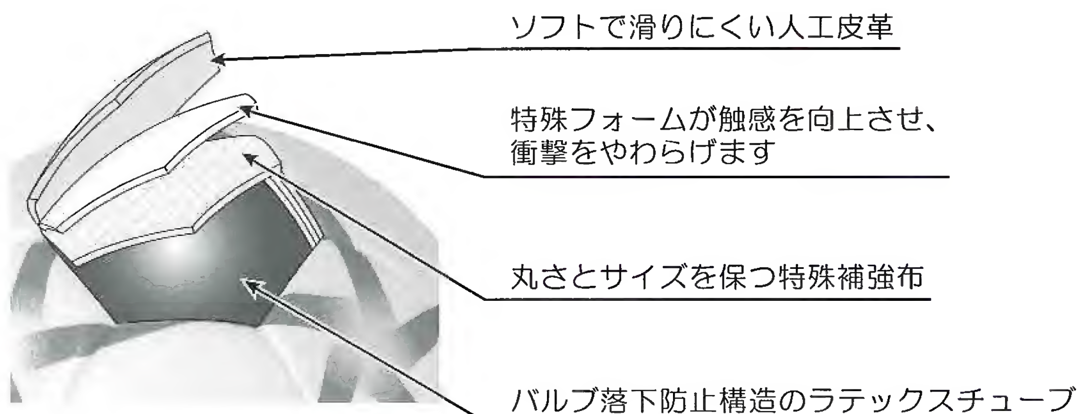
検定球3号、人工皮革
男子(一般·大学·高校)
カラー：イエロー



HP200

検定球２号、人工皮革
女子(一般·大学·高校)・中学校
カラー：イエロー

数々のテクノロジーがプレイをサポートします



株式会社 ミカサ

What do you see?

透き通った葉の向こうに
「ITOCHU」が見えますか？
私たちは、
企業としての透明性を大切にしています。

©ITOCHU 2001. 10. 26

ITOCHU 伊藤忠商事株式会社
http://www.itochu.co.jp

（財）日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四五〇号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十六年四月二十六日印刷 平成十六年五月一日発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 三四八一－二三六一
〇〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人 大西武三
定価 年間三三〇〇円